心理学研究法Ⅰ（実験計画法）

科目ナンバリング　PSY-203
選択必修　　2単位

飯島　雄大

1. 授業の概要（ねらい）

心理実験では、様々な条件を操作することにより心理現象を検証する。よってどのように条件を設定するのかが重要になってくる。この講義では、データを適切に取得し、科学的に妥当な検証を行うための実験計画法について講義を行う。実験計画と解析手法は連動している。そのため前半は実験計画法とデータの取りかたについて学び、後半は統計ソフトウェア（R）を用いた実験データの解析方法について学ぶ。

2. 授業の到達目標

・実験計画法について理解する。
・実社会におけるこころの問題を測定・評価できる。
・心理学的問いを解明するために、具体的な研究方法を提起できる。
・研究倫理に配慮しながら、研究を計画し、データを収集できる。
・心理実験を実施し、データを収集・分析できる。

3. 成績評価の方法および基準

小レポート（50%）、小テスト（50%）で評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

対馬栄輝・石田水里　医療系データのとり方・まとめ方―SPSSで学ぶ実験計画法と分散分析　東京図書
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎　Rによるやさしい統計学　オーム社
橋本 貴充・荘島 宏二郎　実験心理学のための統計学　誠信書房

5. 準備学修の内容

・実験計画と統計解析は密接にかかわっているため、心理統計の基礎を復習して臨むこと。
・授業を復習し、自身のリサーチクエッションをどのように検討するか考える。
・統計ソフトのプログラミングについて復習し、解析結果を適切に報告できるようにすること。

6. その他履修上の注意事項

受講生の理解度や進捗によって、以下の授業内容や順番を変更することがある。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　実験による実証
【第3回】　データとその性質（オンライン）
【第4回】　研究計画を立てる
【第5回】　対象を抽出する
【第6回】　実験計画法
【第7回】　ここまでの振り返り
【第8回】　Rの基本的な使い方
【第9回】　実験デザインと分析①：対応のあるt検定
【第10回】　実験デザインと分析②：対応のないt検定
【第11回】　実験デザインと分析③：1元配置分散分析（実験者間1要因分散分析）
【第12回】　実験デザインと分析④：2元配置分散分析（実験者間2要因分散分析）
【第13回】　実験デザインと分析⑤：反復測定分散分析①（実験者内1要因分散分析）
【第14回】　実験デザインと分析⑦：分割プロットデザイン（混合計画2要因分散分析）
【第15回】　検定力分析